

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470600285
法人名	サントラフィック株式会社
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地 (電話番号)	津市戸木町字多度4113-56 (電話)059-255-8828
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年4月14日(月)

## 【情報提供票より】(H19年4月18日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 3.67人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 120,000円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

## (4)利用者の概要(4月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 77 歳	最高	94 歳	

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	中浜胃腸科・外科 真弓訪問歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1階がデイサービスで2階がグループホームとなっている。外観の雰囲気とは異なり玄関に入ると、いたる所に木を使った設計になっていて温もりをだしている。管理者は、管理者であると同時に介護現場の職員としても勤務につき、日頃から、利用者、家族へ何が出来るかを自問自答し、会議等で職員と話し合っている。必要に応じ、要望や改善点等を法人の代表に提言し、ホームの質の向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	以前は理念が長文であった。職員全員で内容の見直しを行い、笑顔の重要性を再確認して結果的に「笑顔」としている。職員の笑顔写真と一緒に掲示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自治会の会合は、併設のデイサービスのホールで開催している。時間調整が難しいこともあり参加ができていなかったが、今後は参加を前向きに検討中である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	「運営推進会議」と称する部内会議を実施しているが、地域密着型サービスで求められている運営推進会議は行われていない。地域住民、民生委、市、町、家族等を交えた会議の開催をお願いしたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族と話し日常の状況を報告している。また、面会に来れない家族等には電話、FAXで報告している。ホーム内にはご意見箱、苦情窓口の担当者名の掲示もある。また、外部機関の受付先の明示もある。家族同士が顔を合わせて交流することで、悩みを共有できる場所の提供(家族会)の取り組みがほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として自治会に入り、年中行事に地域の方々が集うことはあるが、自治会の会合等にグループホーム側から出席することはしていない。今後検討中との事であるので、時間の調整をしていただき積極的に参加されて認知症の理解と協力の啓発をしていただきたい。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を「笑顔」としている。笑顔の文字と職員全員の笑顔写真が掲示されている。前回の評価の見直しの中で、職員全員で話し合っ決めてものである。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の場だけでなく、昼食ときに職員間での会話の中でも職員の笑顔の大切さについて話している。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っている。今年の夏に「夏祭り」があり、地域の人達との交流を予定している。	○	自治会の会合場所に併設のデイサービス事業所のホールを提供している。しかし場所の提供だけでグループホーム側からの出席はない。できるだけ時間調整の中、出席されてホームの理解と協力の啓発をしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価の意義について理解は見られるが、介護現場の職員に周知されておらず改善策や取り組みについて、十分に活用されていない。	○	地域密着型サービスに係る評価の意義について、運営者は管理者をはじめ全職員に評価への取り組み姿勢を示していただき、一層の質の向上を図ってほしい。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人組織内での運営推進会議の開催はあるが、家族、地域住民や市、町、民生委員等が参加しての取り組みはされていない。	○	多くの方達の参加を呼びかけ、参加者の意見や質問、各評価の報告や改善策、話し合いの場の提供など、2ヶ月に1度の開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は休日や時間外を利用して市に相談をしている。また、認定更新の手続きも家族の都合がつかない場合は代行申請をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「ふるさとだより」を発行し、利用者の状況等を家族に知らせている。また、面会時や電話で随時報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置と苦情担当者も決めており、家族等からの相談苦情に対応できるようにしている。また、外部機関の苦情窓口の記載もある。現在のところ家族からの苦情等はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はできる限り職員の移動を少なくしようと、運営者につけあったりする努力をしている。移動がある場合には利用者には不安を生じさせないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は1人でも研修に参加できるように勤務を組んでいるが、管理者自身も現場に入っているため、管理者と交代して職員を研修に参加させる機会は少ない。	○	グループホームの質の向上を図っていただく為にも、できる限りの研修参加を図ってほしい。また、内部で勉強会開催の検討をしていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の体制は無いが、いつでも見学をできるようにしている。見学の際に職員を紹介したり、居室を案内するなど、利用者に緊張や不安を生じさせないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から戦争の話が出ると職員は話をよく聴いている。一緒に話を聴いてくれると分かるや段々詳細な話まで進んでくる。その後、納得された表情になる。また、訴えがある場合は管理者、職員はとにかく利用者の話を最後まで聞くようにして信頼関係を作ろうとしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある利用者には、一旦一緒に外にでて共に歩く。利用者が落ちつかれたら戻るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや日常の業務での気づきを個別の介護計画に反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しをしている。また変化が生じたばあいには随時話し合い見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	例えば、利用者が買い物希望したときに、一緒にでかけたりして、できるだけ状況に応じた支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医の往診もあるが、利用者のかかりつけ医への受診もある。家族の都合がつかないときは職員が受診についていく事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明において、ターミナルケアの体制をとっていない事を説明している。状態の変化があれば、家族に連絡して納得のうえ医療機関を紹介している。	○	終末期ケアが条件ではないが、家族等が終末ケアを望むことがあれば、他職種との連携を図っていただき最大の支援を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は改まった言葉がけでなく、親しみある対応で利用者に接しそれぞれの方の尊厳を守り、プライバシーの保護に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行くグループ、外出する方、帰宅願望のある方には、一緒に出かけたりしてその人に応じた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意ができ、各居室の利用者に「お食事の用意ができました」というような声がけをしている。利用者と一緒に準備をしている光景は見られなかった。また、見守りという理由もあるが職員と一緒に食事をしていない。	○	例えば、テーブルを拭いたり、お茶碗を並べたり、できる方ができるところをさせていただき支援してほしい。職員は例えば1人でも利用者と一緒に食事する方法も検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階のデイサービスの大きい風呂場を使って入浴している。入浴時間が午後からとなっていて、週3回の入浴で曜日によって男女分けになっている。近場の温泉湯を使っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、折り紙、絵を描く、草が茂っていると草抜きに外に出る方等、それぞれの方の得意分野を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ天気の良い日は散歩を日課にし、外出するようにしている。毎月の行事に、お出かけプランを立て、外で食事を楽しんだりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことの意味を職員全員で話しあい、日中は鍵をかけないようにしているが、状況に応じてかけざるを得ない時もある。	○	鍵をかけることは、利用者の不安を高じさせることに繋がりがかねない。職員は利用者一人ひとりの状況を把握し、外出する気配を見落とさないような見守り、声かけをするなどの工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル、緊急連絡網の作成はあるが、非常時に備えた訓練はしていない。	○	消防署等からの実地訓練を定期的を受けていただき、非常時に備えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者から納入している為、栄養のバランスは考慮されている。水分量も食後、出浴時、おやつ、外出帰り等に補給し、おおよその水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは少し狭いが、廊下幅は広めになっていて随所に椅子が置かれている。利用者は思い思いの場所を利用して寛いでおられる。散歩中に見つけた花を摘んで活けたりして季節感をだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、テレビ、持ち込みの机、写真、運動の為のエアロバイクの自転車、絵筆など馴染みのものが置かれている。		